


ま な び や

# 目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.51 2019年2月20日発行 発行人 関野祐二  
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804  
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: [covenant-seminary@nifty.com](mailto:covenant-seminary@nifty.com)

---

主の聖名を讃美いたします。

「あしたのスーパームーンは観るんですか？」と神学生に訊かれました。満月はのっぺり見えるだけ、大きさの違いはわからない、そんな艶消しのコメントを返しながらか、きれいな月を皆で屋上から眺めるのもいいな、と思いを改めました。裏門を閉めつつ、校舎の横に煌々と輝く月を仰ぐと、どことなく柔らかい光に見えるのは、春が近いからかもしれません。思い浮かぶのは、江戸端唄の「梅は咲いたか、桜はまだかいな」、唱歌「どこかで春が」、それともあの「春一番」？  
「どこかで春が生まれてる／どこかで水が流れ出す」(作詞：百田宗治、作曲：草川信、1923年)

校長 関野祐二

## ● 二人面談、二つのセミナー

年明けの授業は個人面談とともに。狭い校長室を少しは片付けて今年も始まった面談は、校長就任16年目にして初めて、都合のつく限りYr教務主任といっしょの対応に切り替えました。廊下の立ち話でもそれなりに話せるし、頼まれれば随時面談を受け付けてはいるのですが、予約制で全学生に公平な機会を提供し、わずか30分でもそのために時間を取り分けて向き合うのは、やはり「特別感」があります。今年は例年よりも多い43名の申し込み。クライアントのため、赤い肘掛け回転椅子まで用意しました(家内のお下がり)。二人体制のいいところは、息詰まることなく雰囲気や和むこと、出された課題に違う角度からアドバイス出来ること、それ以上に校長のあやしい記憶力をカバー出来ることでしょうか。そうそう、Yr先生不在で個人対応の時、「先生はどうして牧師になったのですか」「献身の証しを聞かせてください」と複数の方々から求められたのは、今までにない経験。アタマがぐるぐる回転し、自分の歩みを手短かに振り返って、なんと恵まれた人生だったかと主に感謝したのでした。あれ、どっちがクライアントだったっけ？

ところで、10月～1月のルカ文書セミナー(Yr)、1月～2月の霊性と黙想セミナー(Y)はどちらも好評でしたよ。土曜午前の設定が良かったようで(午後では気が気でないので)、それぞれ40名、10名を超える参加者。自分がセミナーやってもこんなに人は集まらないな、と、ちょっぴり悔しい気持ちにもなりました(何のセミナーやるんだ?)。来年度もご期待くださいね。

## ● アナログ機械の妙

在校生は誰も気付いてくれないのですが、カンレキ祝いに家族から機械式腕時計をプレゼントされました。ムーブメントがスケルトンで見え、ムーンフェイズ(月齢)表示も付いた、メカと天文好きの自分にはピッタリの国産品。ウレタンバンドのデジタルも普段使いにはいいけれど、これはまるで別世界の体験となりました。スケルトンの窓から、心臓の鼓動のようなテンポの動きが見えます。自動巻ゆえ、しばらく置いた後にはりゅうずを巻きます。機械の精度に頼って時を刻む機構上、1日に数秒は進みますから、数日毎に秒針を止めて電波時計と合わせます。同じ

針式腕時計でも、クォーツ式は水晶発振子の振動を基準に針を制御するので、針の進み方が一秒おきのデジタル。時計自体の機械精度は問わないため、それなりのムーブメントしか搭載していません。これはまるで神と人の関係だな、と思います。神は、私たち人間をクォーツや電波時計のような、正確無比の強烈な制御で支配はしていないのではないかと。むしろ、神のかたちとして精密に創造した人間一人一人にいのちを授け、主体性を尊重し、くるくる回るテンポのように自分自身で生き、考え、御手の中で動くようにされる。自分で自分の時を刻むことを喜びとしてください、冷たい正確さよりも、主にあって生き生きした生き方を求められるのではないかと。わが書斎の、気温・湿度・気圧を測るシリンダー型気象計（これも家族からの贈り物）と、大学時代からの（高級！）レコードプレーヤーに加えて、アナログ機械は三つ目。神学生に接するときも、正しすぎるデジタルではなく、人間味あふれるアナログで対応しようと決心したのでした。

## ● さあイスラエルへ

足かけ2年も準備をしてきた、神学校主催のイスラエルスタディツアーが、いよいよ卒業式2日後に迫りました。今回参加が叶わなかった方々の思いも胸に、31名+添乗員で行って来ます。あの3・11五日後に出発予定だったスタディツアーを、苦渋の決断で出発前日にキャンセルし、ほぼ全額が返金されたものの、震災と原発事故の強烈な記憶に揉まれ、リベンジの機会を失ったままでした。今回は、信頼できる添乗員を加えた実行委員会が準備を進めて来たので心強い限り。2回の事前学習会は、11月にイスラエルの歴史と現在の政治状況を学び（神学校主催ならではの）、1月に訪問地の個別解説をして（オリジナルガイドブック使用）、2月に直前の旅行説明会を終えました。福音書記者4名の名を冠したグループ毎の自己紹介と方針発表は大盛り上がり（あいさつ・時間厳守・祈りは山上の説教があるマタイGの方針三原則）。五回目のイスラエルとなる今回、団長としてのツアーは初めてなので、今までのように浮かれ気分の写真三昧とはいかず、スタディツアーの名に恥じぬよう、団長（断腸）の思いで聖書クイズの現地出題が役割かな（文集作成の原稿宿題もあるよ）。いや、往復の空路や行く先々での健康と安全を祈るのが役割ですね。

## ● 7名卒業、入学式は？

今年度は、専門科卒業が7名、基礎科卒業はなし。各々、困難を乗り越えて卒業に至った思いはいかばかりか、送り出してくださった教会やご家族の祈りも含め、想像するに胸が熱くなります。その前に忘れてはならないのが入学試験（担当する運営委員は体力勝負）。今の執筆時点でまだ最終確定していませんが、感触からすれば、当日は例年と同じく（感謝なことに）夜9時過ぎまで面接が続くでしょう。このレターがお手許に届く頃、受験者が決まっているはず。今回は聴講から正規生への編入がゼロなので、すべて外部からの新規受験となります。基礎科から専門科への進級12名は最多記録。シゴキの聖書解釈学／組織神学で心よりお待ちしておりますよ（奇特な方は基礎科で履修済み）。卒業式の高揚、入学式の緊張（何人かな？）、今年も楽しみです。

## ● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 3/11 専門科を卒業する7名のこれからの働き。在校生80名の後期学びが最後まで守られるように。4/1より新規に学ぶ正規生、聴講生が多く与えられるように。
- ・ 3/13～22イスラエルスタディツアー参加32名の健康と安全が守られるように。
- ・ 本校が、教育、神学研究と交流、情報発信、出版など良き働きを続けられるように。